

シネマ203

上映作品ラインナップ

たまにはちょっと、映画でも

北ぶらくり丁に、日本最小の映画館がオープンしました。

大きなスクリーンと、包み込むような音響で映画に没入できる17席の空間で、

小さいけれど本格的な“極小極上”の映画体験をお楽しみください。

ドキドキするような世界の映画を、毎月の土日祝を中心に月替わりで上映します。



🎬 上映スケジュールはお客様と一緒に

毎月の土日祝は、シネマ203が上映時間を設定してスケジュールを発表します。

平日や夜などは、希望日予約を受付中。

ご希望の上映時間と、その月の上映作品を指定してお申込みください。追加上映します。

(HP、Facebook、Instagramで随時更新)

なお、ご観賞の事前予約を各回10名様まで承ります。(電話、メール、SNSメッセージ等で)

🎬 入場料金

一般：1,700円 / 大專：1,500円 / 小中高：1,000円 (特集上映など特別料金あり)

※ 各回開場時(上映10分前)に現金でお支払いください。

※ 2024年4月以降に新しい料金設定を導入予定です。

🎬 アクセス

本町公園より徒歩1~2分

北ぶらくり丁と本町公園を南北に繋ぐ細い道路に<北ぶらくり丁会館>の鉄看板あり

【駅から徒歩】

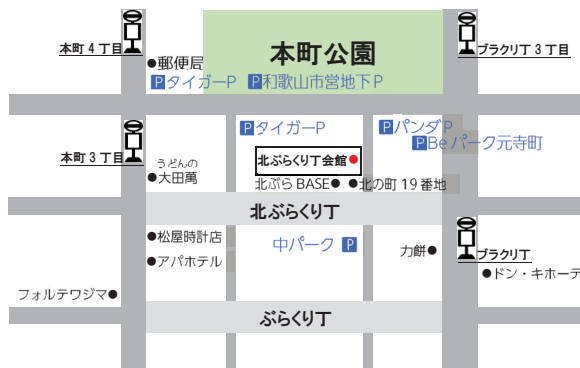
和歌山市駅より徒歩10分(800m)

和歌山駅より徒歩25分(2km)

【駅からバス】各バス停より徒歩2~4分

和歌山市駅より約1~2分

和歌山駅より約5~9分



北ぶらくり丁会館 203号室

シネマ203

cinema203



和歌山市中ノ店北ノ丁22
北ぶらくり丁会館 203号室
090-8172-7074

cinema203.com/



■引退撤回！ 帰ってきたカウリスマキ監督のゴキゲンなラブストーリー

「犬、出てるよ！」——映画業界にはいくつかジンクスがありますが、犬が出ている映画は流行る、というのもそのひとつ。蓋を開けてみれば、6 年前の引退宣言からあっけらかんと帰ってきたカウリスマキ監督の人気と、素敵な日本版予告篇（特に姉妹シンセ・ポップ・デュオ）、そして主演女優アルマさんの来日キャンペーンまでどんどん話題は盛り上がり、先行スタートした東京 4 館で大ヒットスタートとなりました。ワン。



『枯れ葉』 KUOLLEET LEHDET (FALLEN LEAVES)

監督・脚本：アキ・カウリスマキ／撮影：ティモ・サルミネン
出演：アルマ・ポウスティ、ユッシ・ヴァタネン
配給：ユーロスペース | 後援：フィンランド大使館
●第 76 回カンヌ国際映画祭審査員賞受賞
●2023 年国際批評家連盟賞年間グランプリ
●第 96 回アカデミー賞国際長篇映画賞部門ショートリスト入

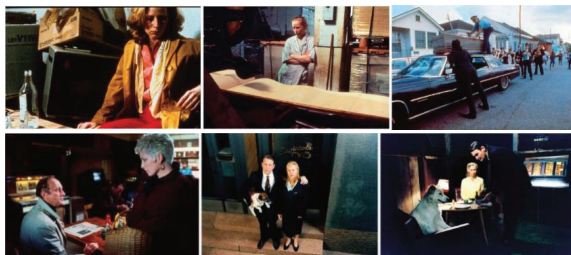
(2023 年／フィンランド・ドイツ／81 分／1.85:1)
© SPUTNIK OY 2023

ノスタルジックなヘルシンキの風景、バンド演奏からカラオケまで自由自在な音楽の使い方、随所に散りばめられたとぼけたユーモア、そして画面から溢れ出る映画愛。ギリギリの生活を送りながらも、生きる喜びと人間としての誇りを失わずにいる労働者たちの日常の中で、たった一つの愛を信じる恋人たちの姿を通して、今を生きる希望が凜と描かれます。

■和歌山初登場を祝して、カウリスマキ監督の人気作 6 本も上映！

監督によると『枯れ葉』は、「労働者 3 部作（『パラダイスの夕暮れ』『真夜中の虹』『マッチ工場の少女』）に連なる“第 4 作目”」なんだとか。笑。過去作の出演者たちが重要な役で登場するなど、他の作品との関連が随所にみられる集大成的な作品でもあるようです。

シネマ 203 で人気の 6 作品を、和歌山でも上映することになりました。ぜひこの機会に、カウリスマキ監督が描くフィンランドと人々の魅力を、スクリーンで満喫してください！



上映作品 左から：
『パラダイスの夕暮れ』（1986）
『マッチ工場の少女』（1989）
『レニングラード・カウボーイズ・ゴー・アメリカ』（1989）

『コントラクト・キラー』（1990）
『浮き雲』（1996）
『過去のない男』（2002）

■来月はまだ 1 本、和歌山で暮らす幸せを思い出させてくれる映画を

『枯れ葉』のあとに、2 月はカウリスマキ監督の盟友、ジム・ジャームッシュ監督の『パターソン』をもういちど見たくまりました。日本の劇場公開は 2016 年 11 月。和歌山では本町公園で野外上映されたのが素敵な一夜でしたが、劇場公開は今回が初めてです。誠実に生きるバス運転手の 7 日間の物語に、身近な愛と、芸術への大きな憧れとが丁寧に描写されて、いつもの変わらぬ毎日の中で感じる心の揺らぎは、和歌山のような街で見てこそ、いっそう染み入るような気がするのです。



『パターソン』 PATERSON

監督・脚本：ジム・ジャームッシュ／撮影：フレデリック・エルムズ／音楽：SQÜRL
出演：アダム・ドライバー、ゴルシフテ・ファラハニ、永瀬正敏
提供：バップ、ロングライド | 配給：ロングライド
●第 69 回カンヌ国際映画祭 <パルム・ドッグ賞>受賞 etc.
(2016 年／アメリカ映画／118 分／アメリカンビスタ)
©2016 Inkjet Inc. All Rights Reserved.

■ドライバーと春を過ごす

2 月から、ドライバー監督の 7 作品を数ヶ月に渡って連続上映することにしました。1889 年 2 月にデンマークに生まれ、無声映画からスタートして母国、北欧、やがてドイツやフランスで次々と映画を発表し“北欧の至宝”と崇められた映画監督です。2003 年 10 月にその全貌を眺めるべく、長篇全 14 本と主要な短篇を集めた『聖なる映画作家、カール・ドライバー』という特集上映が組まれました。無声映画の伴奏専門のピアニストも来日し、有楽町朝日ホールに続いて会場となったフィルムセンターからは連日長蛇の列が伸び、若手映画監督たちがチケットを求めてその列の知り合いに両手を合わせて拝んでいた凄まじい上映会でした。

こういう書き方では伝わりませんよね。見るとどうとりするような映画なんです。記憶の中の各作品はどれもいたってシンプルで、恐ろしいほど美しいものでした。「聖なる」ということばがピッタリで。

短期間にまとめて見るのではもったいないような気がして、今回は、月に 2 本ずつ、ゆったりと味わいながら見ていきたいと思いました。まずは、1979 年に岩波ホールで上映された『奇跡』と、ゴダールの『女と男のいる舗道』でアンナ・カリナが涙するシーンが有名な『裁かるゝジャンヌ』から始めようと思います。

昨年 11 月にカサヴェテス監督の特集をしたばかりなので、しばらく監督特集はなくていいと思っています。ドライバー監督の上映があるとなると、仕方がありません。ことに、『ミカエル』が入っていると。というわけで、皆さま、しばしお付き合いください。シンプルで、新しく、苦しくて、可笑しくて、とにかく美しい作品です。ドライバーという魔術師の映画の魔法を、心地よくお楽しみください。

(北ぶらのハチ公より)

※ 連続上映『カール・テオドア・ドライバー セレクション vol.2』破格の特別観賞券 [4 回券 4,000 円 / ポストカードセット付] 販売中。無くなり次第終了です。